

横浜市環境創造審議会 第 2 回雨水浸透機能促進方策検討部会 議事録	
議 題	1 . 第 1 回雨水浸透機能促進方策検討部会議事録について 2 . 雨水浸透機能強化のための重視すべき取り組み 3 . その他
日 時	平成 21 年 5 月 28 日 ( 月 ) 10:00 ~ 12:00
場 所	関内駅前第二ビル 6C 会議室
出席委員	河野 正男、長岡 裕、檜垣 宏子、岡 泰道、高見澤 邦郎、吉中 保 ( 6 名 ) 敬称略
欠席委員	なし
開催形態	公開
資 料	1 議事次第 2 資料 7 横浜市環境創造審議会 ( 雨水浸透機能促進方策検討部会 ) 委員名簿 3 資料 8 第 1 回雨水浸透機能促進方策検討部会議事録 ( 案 ) 4 資料 9 雨水浸透機能強化のための重視すべき取り組み

#### 開会

事務局挨拶

事務局の構成の一部変更の説明

#### 議事

##### 1 第 1 回雨水浸透機能促進方策検討部会議事録について

(事務局)

資料 8 により議事内容を説明

(河野部会長)

特に意見がないようなので、この議事録を確定します。

##### 2 雨水浸透機能強化のための重視すべき取り組み

(事務局)

資料 9 により雨水浸透機能強化のための重視すべき取り組みを説明

(河野部会長)

水循環再生のイメージ図で、緑が多いと蒸発散量が多いというのは、表面流出量が少なく水が地表面に保水されているために蒸発散量がふえるという理解でよいでしょうか。

(事務局)

一定の時間、地表面にあることで蒸発散します。

(岡委員)

同じ図で、「地下水貯留」という言葉は、深部への浸透と流域外への地下水流去に分かれると思います。地表水の流域界と地下水の流域界は、ずれる場合が多く、しみ込んだものが必ず川には出ず、他の流域に行く場合があると思います。

(吉中委員)

同じ図の「将来」というのは、大体何年後ぐらいをイメージするのでしょうか。

(事務局)

具体的に年次を決めて対策量を積み上げてはいませんが、将来の水循環再生のイメージとして整理しています。

(岡委員)

表面流出量がかなり増えているのは、流出率のようなパラメータを変更したのでしょうか。都市化をどのくらいのレベルで変えたのでしょうか。

(事務局)

土地利用状況の変遷に伴い、仮に自然面が確実に担保出来ずに失われていくという条件を想定しました。

(岡委員)

表面流出が劇的に改善されるというのは分かるのですが、蒸発散がほとんど変わってないというのが理解しにくいと思います。計算上のパラメータ設定の関係と思いますが、どうでしょうか。

(事務局)

再確認致します。

(長岡委員)

浸透量が地下水流出として河川水量になるというイメージについて、検証は可能でしょうか。

(事務局)

1年間だけ実績降雨に対してどれくらい出てきているかを調査してキャリブレーションした記録があり、ほぼ相関はとれています。

(長岡委員)

湧水の位置のデータから、湧水量のモニタリングを続けると、分かりやすい指標になると思います。

(事務局)

浸透量と湧水量の関連性がとれれば、また、湧水量など分析データを集めて、変化が検証できれば、市民に分かりやすいと思います。

(檜垣委員)

下水道整備を進めることは重要であると思いますが、湧き水を水路に戻すことも重要であると思います。湧いているその瞬間だけではなくて、三面護岸にしなければ、流れている間ずっと浸透するので、余裕ができたならお願いしたいと思います。

(事務局)

昔は、河川を埋めてきましたが、最近は、湧水を水源にした小さな水路については、小川の形を残しながら雨水整備をしていくことに取り組んでいます。

(高見澤委員)

重視すべき施策に市民・事業者・行政が協働とありますが、まちづくりNPOや大学など、間に立って市民活動を働きかけていく団体を行政が支援していくことも大事だと思います。

(岡委員)

重視すべき施策の進め方で、行政の役割と市民行動は両輪であり、それは対になって目標に進んでいくイメージが良いと思います。

(高見澤委員)

雨水浸透を地域別の具体的な指針や構想に明記するには、全市プランの改定が必要であると思います。全体構想に明記され、地域別などの個別構想に繋げていくことが重要であると思います。

(事務局)

都市計画のマスタープランは平成 12 年に策定してから時間が経過しているため、社会情勢の変化に応じることができるよう、今年度から改訂作業を進めていくことを考えております。

(河野部会長)

宅地の雨水浸透機能促進の助成対象に、マンションや団地全体への助成は含まれるのでしょうか。

(事務局)

1 敷地当たり、1 つの建物に 4 つまでという基準ですが、それらも対象としています。

(高見澤委員)

宅地用雨水浸透ますの促進には、建築主は基より、工務店・ハウスメーカーの設計者の意識を高めることが大切だと思います。現在は、役所に来なくても民間で建築確認ができるため、PR の相手はずいぶん増えていると思います。

(岡委員)

民間の集合住宅や事業所に対し、浸透ますだけでなく、浸透トレンチを組み合わせ、想定浸透量に応じて助成をする制度の拡大のような考え方も取り入れたらいい方向に行くのではないのでしょうか。

(長岡委員)

施策展開では、浸透について平常時の水循環より主に浸水対策について書いてありますが、なぜでしょうか。

(事務局)

ゲリラ豪雨対策などとして、まずは、浸水対策としての位置づけを整理し、平常時も含めた水循環の効果については、流域の取り組みとして重要であります。定量的に表現することが困難なため、副次的に考えています。

(岡委員)

浸透施設の位置づけは、現段階では、国も各自治体も非常に苦慮しています。最初から、治水計画として完全に位置づけ、確率雨量の何%を負担するということを約束することも難しいと思います。そこで、まずは超過降雨に対する安全側の施設としての位置づけにしておき、今後、維持管理など持続可能なシステムが構築され次第、計画として位置づける考え方はやむを得ないと思います。

(吉中委員)

市域に降った雨の処理としては、道路や宅地などの個別の処理はもちろん大切ですが、それだけではなくて、公園や学校、道路などの浸透と貯留浸透施設の横断的なつながりに期待したいと思います。

現段階では、車道の雨水浸透については技術的に全てがクリアになっていませんが、将来的な展望として、国などの実地検証を見ながら、取り込んでいけるように検討していただければと思います。

(河野部会長)

助成制度と併せて PR も必要だと思います。PR では、治水面の必要性和、もう1つ、地下水涵養などの自然環境をよくする活動に貢献するという点も訴えていくことが必要であると思います。

(吉中委員)

浸透ますを設置している個人宅にステッカーを表示するなど、住民の目に触れやすいところで PR する方法もあると思います。身近なところにちょっと目につくものがあると、お互いの意識を向上させるきっかけづくりになるのではと思います。

(岡委員)

学校などでの貯留浸透事業では、よく大きな看板が立っていますが、看板だけで子供たちにあまり PR ができていないように思われます。作った後も、施設の意義を伝える何らかの仕組みや努力が必要であると思います。

(事務局)

持続可能な広報をできる限り継続できるような仕組みを考えていきたいと思います。

(河野部会長)

雨水浸透施設の定量的効果として浸透量の試算値がありますが、試算値のとおり浸透すると、降雨強度のランクが下がるぐらいの効果があるのでしょうか。

(事務局)

単位浸透量をもとに、適地全てに浸透施設を整備した想定結果から、降雨強度に換算すると1時間あたり約1.1ミリから2.0ミリ程下がるだろうと試算しています。これは、計画に見込むためにリスクを考慮し、安全率を乗じていることから、期待できる効果が相当小さく算定されています。

(長岡委員)

PRの話と、計画上の位置づけとは意味合いが違うと思います。計画上、見込むとなると安全率も最大限乗じると思いますが、PRを進めるという観点からは、期待できる効果は分けて考えるべきだと思います。もちろん、両方とも定量的に評価しなければいけないと思いますが、手法が違うと思います。

(檜垣委員)

雨水浸透ます設置のルール化のところで、浸透機能を有した雨水ますを標準とする検討の方向性に期待していますが、これは希望という意味でしょうか。

(事務局)

浸透を標準にするという考え方を、何らかの形に反映していく必要があるのではないかとというのが今回の提案です。具体的に、現地精査が必要な部分が多いと思いますが、仕組みを考えていきたい。

(檜垣委員)

市民は自分の家が適地かどうか分からないので、例えば、新築・改築の手続の際に市から勧めていただきたいと思います。また、浸透適地が市域の3分の1であれば、その他3分の2は雨水貯留など別の方法を考えて、水の健全な循環を提案していかなければならないと思います。

(事務局)

浸透適地以外も、現地に行って、宅地の離れ、地下水、土質などの条件を精査して、可能であれば浸透させてもいい区域となっています。この区域は、検討地としており、設置の相談は、環境創造局管路保全課もしくは各区の土木事務所が相談窓口になっています。

(檜垣委員)

新築の手続きと浸透の相談が、セットになったルールができると良いと思います。

(河野部会長)

検討地については、設置の可否をもっと分かりやすくするような提案も良いと思います。

### 3 その他

(長岡委員)

水循環再生の図は、地下浸透でそれが湧水や河川の水になる部分をもう少し分かりやすく表現できると市民にはアピールしやすいと思います。

閉会